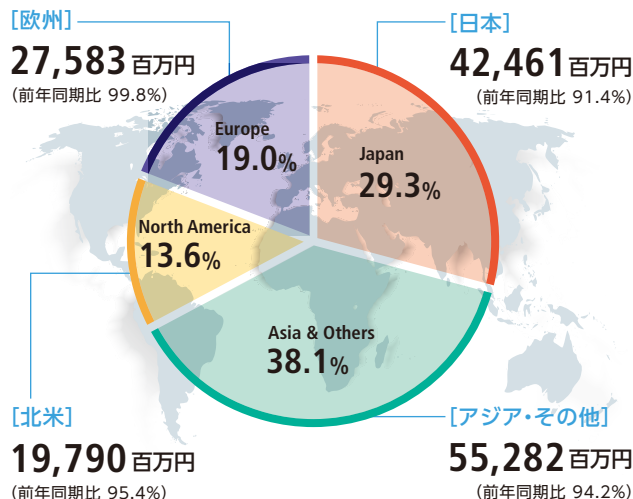




## 業績ハイライト

科目	第2四半期連結累計期間	
	2018年度	2017年度
経営成績		
売上高 (百万円)	145,116	153,528
営業利益 (百万円)	14,784	14,639
経常利益 (百万円)	14,383	13,654
親会社株主に帰属する 四半期純利益 (百万円)	11,112	9,953
1株当たり 四半期純利益 (円)	45.11	40.41

## 売上高の地域別構成比



## 売上高のセグメント別構成比

### システム

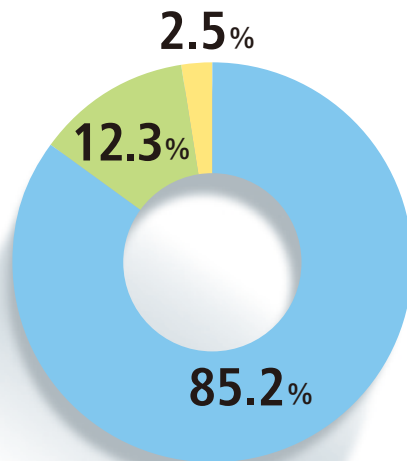
ハンディターミナル、電子レジスター、  
経営支援システム、  
データプロジェクター等

売上高 **17,828** 百万円  
(前年同期比 93.5%)

### その他

成形部品、金型等

売上高 **3,635** 百万円  
(前年同期比 94.3%)



### コンシューマ

ウォッチ、クロック、電子辞書、  
電卓、電子文具、電子楽器等

売上高 **123,653** 百万円  
(前年同期比 94.7%)

### 合計

**145,116** 百万円  
(前年同期比 94.5%)

## 当第2四半期連結累計期間の業績概要

当上半期における内外経済は、日本や米国では雇用環境の改善と底堅い個人消費を背景に堅調に推移し、欧州も緩やかな回復基調で推移しました。一方、米中間の貿易摩擦に対する懸念への高まりや新興国通貨の下落など世界経済の不透明感は増しております。

この環境下、当第2四半期連結累計期間の売上高は、新興国通貨安の影響等もあり、前年同期比5.5%減の1,451億円となりました。セグメント別内訳は、コンシューマが1,236億円、システムが178億円、その他が36億円となりました。

時計は第1四半期に引き続き「G-SHOCK」の初号機5000シリーズ初のフルメタル仕様モデル『GMW-B5000』などの新製品が国内を中心に好調に推移しました。また、中国でも「G-SHOCK」が引き続き好調に推移しました。電

卓は海外で学生向けに関数電卓が好調に推移し、今後拡大が期待できるインドネシアとの関係も強化しました。

損益につきましては、営業利益はコンシューマが182億円、システムが0.6億円、その他が2億円、調整額が△37億円で前年同期比1.0%増の147億円となりました。

時計は収益性の高い新製品の販売が好調に推移し高収益性を維持、電卓は海外で関数電卓が好調に推移し収益性を維持、楽器は構造改革効果で赤字を改善しました。システムは構造改革推進中のプロジェクトは赤字となっておりますが、それ以外の製品の寄与により黒字を確保しました。また、経常利益は143億円(対前年同期比5.3%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は111億円(対前年同期比11.6%増)、1株当たり四半期純利益(EPS)は45円11銭と改善しました。

## 通期の業績見通し

代理店網の再編・再整備に伴う一時的な売上減少、新興国通貨安の影響、新規事業の見直しなどにより、2018年5月9日に公表した2019年3月期の通期連結業績予想の売上高3,400億円から3,200億円に修正いたします。

当グループは今後も全世界で通用する独自技術を生かした新製品の積極的な世界展開により、長期的視点に立った収益力強化、経営・財務体質強化に取り組めます。

### 2018年度通期業績見通し(連結)

売上高	3,200億円(前期比 101.7%)
営業利益	350億円(前期比 118.4%)
経常利益	330億円(前期比 114.9%)
親会社株主に帰属する当期純利益	230億円(前期比 117.6%)